



令和4年2月24日
海上保安庁

海上保安庁モバイルコーポレーションチームをスリランカに派遣 ～スリランカ沿岸警備庁の油防除対応能力の向上に貢献～

海上保安庁は、2月12日(土)から、外国海上保安機関の海上保安能力向上支援の専従部門「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム(MCT)」3名をスリランカ民主社会主義共和国に派遣し、17日(木)に行われたスリランカ沿岸警備庁(SLCG)による原油流出事故対応総合訓練において、油防除対応能力の評価や油防除技能に係る指導、助言等を行うなど、SLCGの油防除対応能力の向上を支援しました。

海上保安庁は、スリランカ政府からの要請を受け、2014年から、独立行政法人国際協力機構(JICA)と協力して、スリランカの海上保安機関であるSLCGにJICA短期専門家等として定期的に機動防除隊等の職員を派遣し、SLCGの油防除対応能力の向上支援を行っており、2017年までは、能力向上支援の第1期として、SLCG職員に対して、港内等における基礎的な油防除に関する研修を実施し、2018年からは第2期に移行して、沿岸海域における原油流出事故対応などのより高度な油防除対応技能の研修を実施してきました。



油防除資機材を使用した流出油（模擬）回収の状況

今回の派遣では、第2期研修の総括として、2月17日(木)に実施された SLCG による原油流出事故対応総合訓練において、MCT が SLCG の油防除対応能力の総合的な確認、評価及び油防除技能に関する指導、助言を行って、SLCG の油防除対応能力の更なる向上に貢献しました。

また、同訓練検討会においては、油や有害液体物質等の防除措置に係る海上保安庁の専門部隊である機動防除隊等も、日本からオンラインで SLCG に油防除技能に関する指導・助言を行いました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの研修により能力向上支援を行っていたため、今回は約2年ぶりのスリランカ派遣となりました。

本総合訓練には SLCG 職員約60名が参加、我が国が供与した巡視艇及び油防除資器材を使用して原油流出事故を想定した訓練を適確にこなす様子から、SLCG の油防除対応能力が着実に向上していることが確認できました。

沖合に中東とつながるシーレーンを擁するスリランカにとって、原油などの油の海上流出事故に対応する能力の向上は重要な課題となっており、海上保安庁による SLCG に対する油防除対応能力向上支援は、スリランカ政府からも高い評価を受けています。

海上保安庁では、今後も、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、各国との信頼関係の深化を図るため、海上保安庁が有する豊富な経験と実績を活用し、各国海上保安機関への能力向上支援に積極的に取り組んでまいります。

1 派遣期間

2022年2月12日(土)から2月26日(土)まで(15日間)

2 派遣先

スリランカ民主社会主義共和国 スリランカ沿岸警備庁

3 派遣要員

海上保安庁モバイルコーポレーションチーム 3名

4 その他

現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、派遣に際しては、PCR 検査の受検を始めとした新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。また、派遣者は、帰国後、政府の水際対策措置を遵守いたします。



流出油回収の状況



海上ガス検知の状況



総合訓練検討会の状況(左:スリランカ、右:日本からオンライン)

